

萩 ネットワーク

第61号 2005年1月

発行：萩ネットワーク協会
〒758-8555 山口県萩市大字江向 510 萩市役所広報課内
TEL 0838-25-3178 FAX 0838-26-5458
萩ポータルサイト「萩・情報の駅」
<http://www.city.hagi.yamaguchi.jp/portal/>

萩市、川上村、田万川町、むつみ村、須佐町、旭村、福栄村の1市2町4村が合併して、3月6日(日)新しい「萩市」が誕生します。

2004年10月26日に、総務大臣告示の官報掲載により、萩広域7市町村の合併が正式に決定しました。

新市の本庁舎は現在の萩市役所で、6町村の役場は「総合事務所」と呼ばれるようになります。現在、市役所・役場玄関には、カウントダウン看板が設置されています。合併後の住所表示、電話番号については8ページ参照。

新「萩市」の面積は699k㎡(県土の約11%)、人口60,369人、世帯数24,810(2004年10月末現在)、市議会議員94人(2006年4月末まで)。

萩広域合併

今年3月6日



国道262号 旭村明木

笠山椿群生林	P2
萩博物館開館、新たな観光スポット誕生	P3
2004年萩市の重大ニュース	P3
関西の萩⑥ 片山東熊(一坂太郎)	P4
ズームアップ【小池幾世】	P5
インタビュー【下瀬信雄】	P6
萩市観光協会公式HP「特色の町」開設	P7
旬の味だより「ぎんたろう」	P7
新「萩市」誕生、新市になったらQ&A	P8
2004年阿武郡町村の重大ニュース	P8、9

目次

同窓会だより、見島沖で巨大マグロが次々	P10
やまぐち食彩店に「まち博カフェ」	P10
萩工60周年記念講演会、萩工業ラグビー全国大会へ	P11
萩の情報をNHKラジオで【中原万里】	P11
夢追人【中尾明日美】	P12
受賞【兼田昌尚・有富美子】、博物館・美術館だより	P13
情報アラカルト	P14、15
萩沖の島々を巡る①【見島】②(中澤さかな)	P16

12月3日に開花宣言！

笠山椿群生林

見ごろは3月下旬まで

12月3日に笠山椿群生林の開花宣言を行いました。また、開花期間中の2月19日から3月21日までは恒例の萩・椿まつりです。

群生林には約10haに約2万5,000本のヤブツバキが自生しています。萩が全国に誇る椿の見ごろは3月下旬まで。帰省の折には、咲き誇る椿のトンネルの小径を散策し、リフレッシュしませんか。



萩小町



深草の少将



萩の里



笠山黒

- 椿見どころ案内人によるガイド (0838・25・3139)
- 問い合わせ 萩市観光課 (0838・25・3139)
- 内容 郷土芸能披露、抹茶席
- ところ 萩市笠山椿群生林
- とき 2月19日(土)～3月21日(祝) 午前10時～午後4時
- 椿が一番の見ごろを迎える2月中旬から3月下旬まで開催されます。

萩・椿まつり

群生林内の開花基準木7本すべてが花をつけたとして、12月3日開花宣言を行いました。時期としては例年並み。

夏の暑さと最近の好天続きで、この時期にしては花もつばみも例年より1～2割多い状況です。

開花宣言

群生林内の開花基準木7本すべてが花をつけたとして、12月3日開花宣言を行いました。時期としては例年並み。

夏の暑さと最近の好天続きで、この時期にしては花もつばみも例年より1～2割多い状況です。



▲観光シンボルレディと開花したばかりの椿

- 萩城下町の古き雑たち
- 萩奇から、萩の歴史の中で受け継がれたお雛様を展示。
- とき 2月3日(火)～4月3日(土)
- ところ 旧久保田家住宅(萩市呉服町 菊屋家住宅前)
- 問い合わせ 萩市観光協会 (0838・25・1750)
- 椿群生林のガイドマップ、カラー写真の萩ものがたり①「萩の椿」好評発売中(15ページ参照)
- 開花宣言から3月下旬まで群生林内をご案内します。(予約制、ボランティアの交通費負担分として千円必要)
- ※ 椿まつり期間中の土・日・祝日はまつり本部で受付(無料)
- 申し込み 萩観光ボランティア協会 (0838・25・3527)

新年のごあいさつ

萩ネットワーク協会会長

萩市長 野村興兒



本年は、前大戦の終結から60年の節目の年。言うなれば戦後の「還暦」です。終戦時に10歳だった方は、今年70歳になられる勘定です。戦後の一つの時代が過ぎて行くこととしております。

○広域合併

戦後諸制度の見直しの中で、「平成の大合併」が全国津々浦々で進展しています。萩広域においても、来たる3月6日に1市2町4村で新設合併し、新しい「萩市」が誕生します。ちょうど50年前昭和の大合併により、大井・三見・見島・六島の各村が、萩市に編入合併されて以来の行政区域の再編です。

新市の面積は、県土の11%を占める広大なもので、交通網の整備を図る等各地域の特性を活かしながら新市の一体感をどう醸成していくか、基礎産業とも言うべき農林・水産業の振興・発展をどう図るか、各地域での次代を担う後継者をどう確保するか、急激に進展する少子高齢化にどう対応するか

等々課題は山積している。将来、10年、20年後に合併して本当に良かったと評価されるよう諸課題に果敢に挑戦していかねばなりません。

○萩開府400年を振り返って

旧年は、萩開府400年記念とし、多彩な事業が展開されました。400年の星霜(せいそう)を重ねて来た歴史を振り返ると、このまちには時代が駆け抜けて行った中に、今なお歴史や伝統が、しっかりと受け継がれ、気風や気概としてその精神が市民のDNAに埋み込まれているような気がします。まず毛利治世の「百万一心」や「三矢の訓」の言葉は、共同一致で物事を成し遂げようとする連帯の精神として受け継がれています。次に、次代を担う若者を育てようとする教育への熱き情熱は、防長教育の原点となっています。また、藩政時代の厳しい状況下での殖産事業への取組みや維新や我が国の近代化を成就させたパワーは、今なお進取の気風として継承されています。

今春誕生する「新萩市」においてもこの共同一致の精神、教育への情熱、進取の気風は、しっかりと受け継がれ、新市の原動力となっていくものと思います。

末尾になりましたが、会員の皆様の御多幸をお祈り申し上げ新年のご挨拶といたします。

萩博物館

開館

5年中無休・
1か月で3万人突破

萩開府400年を記念して、11月1日に萩博物館が開館。「萩まちじゅう博物館」は、萩のまち全体を博物館としてとらえ、そこに残る都市遺産を保存・活用し、今後のまちづくりの基軸となるもので、「萩博物館」はその拠点となる施設です。

展示室は萩学展示室や萩再発見ギャラリー、企画展示室、高杉晋作資料室で構成し、萩の情報や魅力を紹介する無料情報コーナーもあります。

高杉晋作資料室

長州萩に生まれ、吉田松陰に学び、奇兵隊を結成して時代の扉を



新たな観光スポット 歴史的文化施設

① 旧久保田家住宅

(呉服町・菊屋家住宅)

呉服商・酒造業を営んでいた久保田家は、江戸時代後期に建てられ、主屋・門・塀・離れが旧御成道に面している。明治時代には名士の宿ともされていた。

② 郡司鑄造所遺構広場

(松陰神社から徒歩2分)

郡司家は、江戸時代秋藩の代表的な鑄物師・砲術家で、幕末に秋藩の大砲鑄造所に指定され、多くの大砲を鑄造した。石組遺構を移築・復元したもので、日本で唯一。

③ 旧萩藩校明倫館南門

(明倫小学校内)

嘉永2年(1849)に明倫館の正門として建てられた南門は切妻造、本瓦葺の四脚門。藩主が、聖廟を拝する春秋の孔子祭や公式行事以外は扉を開くことはなかった。本願寺山口別院から寄付を受け、西田町から元の場所へ122年ぶりに移築・復元。

④ 萩城跡北の総門

(萩博物館から徒歩2分)

北の総門は藩政時代、中の総門、平安古の総門とともに城下に入る城門として設置されていた。脇戸付の高麗門、切妻造、本瓦葺で、高さ約7mあり日本最大級の高麗門で133年ぶりに復元。



① 旧久保田家住宅



② 郡司鑄造所遺構広場



③ 旧萩藩校明倫館南門



④ 萩城跡北の総門

2004年 萩市の重大ニュース

● 合併協定書に調印(7月)

田万川、須佐町とむつみ、福栄川上、旭村との1市2町4村で合併協定書に調印。来年3月6日に新「萩市」が誕生する。

● 萩八景観光遊覧船が運航開始(7月)

橋本川を中心とする河川の景観を活用した観光戦略。11月までの乗船客数は約8500人。来年は3月から運航する。



● 台風18号が直撃(9月)

市内全域で倒木や屋根瓦が飛散し、約1万2000世帯が停電。多くの文化財施設も被害を受けた。

● 萩開府400年(11月)

萩藩開祖の毛利輝元公が萩城に入場した11月1日に記念式典を開催。上の4つの歴史的文化施設の整備を行った。

● 萩博物館が開館(11月)

これからのまちづくりの基本理念となる「萩まちじゅう博物館」の中核施設として開館。

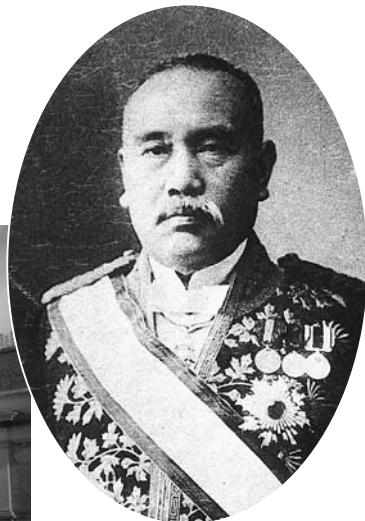
明治日本に西洋館次々



▲迎賓館（東京都港区赤坂）
京都国立博物館（京都市東山区）▶



▲奈良国立博物館（奈良市登大路町）



萩市 出
身の建築家
(1853 - 1917)



幕府が倒れ、明治という新時代がスタートするや、政府は洋風の文明開化を促進。その半面、日本古来の伝統文化が軽視され、廃仏毀釈の横行もあって、多数の社寺の文化財が損傷、散逸するという弊害も起こった。

奈良興福寺の五重塔が払い下げられたのもこの頃の話だ。購入者は焼き払って金具を取ろうとしたが、類焼を恐れる声が強くなり中止されたという。

見かねた政府は1871（明治4）年、文部省博物館を設け、古器旧物保存のため動き出す。

幕府が倒れ、明治という新時代がスタートするや、政府は洋風の文明開化を促進。その半面、日本古来の伝統文化が軽視され、廃仏毀釈の横行もあって、多数の社寺の文化財が損傷、散逸するという弊害も起こった。

奈良興福寺の五重塔が払い下げられたのもこの頃の話だ。購入者は焼き払って金具を取ろうとしたが、類焼を恐れる声が強くなり中止されたという。

見かねた政府は1871（明治4）年、文部省博物館を設け、古器旧物保存のため動き出す。

さらに1889（明治22）年、東京と、古社寺と文化財の集中地区である奈良・京都に、それぞれ宮内省管轄の帝国博物館（現・国立博物館）を設立することを決める。

そして、奈良・京都両博物館の主任技師として設計と工事を担当することになったのが、片山東熊であった。

東熊は萩の人である。長州藩士の家に生まれ、1867（慶応3）年8月には奇兵隊に入った。入隊資格は15歳からで、東熊は14歳だったが、体格がずば抜けて立派だったので採用されたといわれる。

戊辰戦争に従軍した東熊は、維新後、大阪に出て造兵寮に入り、軍人を目指した。

しかし、なぜか「志」を転じ、横浜の外国人宅で書生として働きながら英語を学ぶようになる。さらには1873（明治6）年に工学寮官費生となり、西洋建築を学び、1879年、工科大学校（現在の東大工学部）造家学科を第1回生として卒業した。

1886年には宮内省の内匠寮に出仕した東熊は、以後「宮廷建築家」の第一人者として活躍し、明治日本に西洋建築を次々と生ん

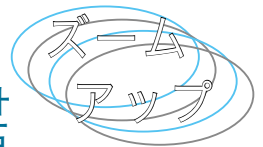
宮殿風の博物館も設計

奈良博物館（写真右）は1894（明治27）年12月に、京都博物館（写真中央）は翌年10月に完成した。いずれもヨーロッパの宮殿を思わせる、バロック様式、れんが造りの華麗な建物で、周囲の景観ともよくマッチしている。現在は重要文化財に指定されているが、どちらの建物も一世紀を経ている。現役の博物館として使われている。奈良博物館の地下回廊壁面には近年、東熊を称え、その肖像パネルがお目見えした。

他に東熊の代表作としては、東京の赤坂離宮がある。1909（明治42）年、皇太子（後の大正天皇）のために建てられたこの宮殿は、1974（昭和49）年より迎賓館（写真左）として利用されており、数々の国際交流の舞台となっている。

東熊が東京千駄ヶ谷の自宅で没したのは1917（大正6）年10月のこと。63歳であった。

（平成16年9月12日付朝日新聞山口県内版「関西の防長」より）
萩市特別学芸員 一坂太郎
（菊川町在住）



小池産業(株)、(株)萩 代表取締役

小池 幾世氏

(宮城県石巻市在住、昭和49年萩高校卒、49歳)

世界の海から最良な魚を

届けています。

信念は夢を持ち続けること



旬の幸と匠の技が織りなす
自然からの美味なる便りに憩う



(株) 萩

「きら亭」(2F牛タンの店)

(0225・92・8071)

「きら亭」(1F天ぶらの店)

(0225・92・8072)

住 所 宮城県石巻市鑄銭湯22-47

私の近況

高校を卒業後、北海道の大学へ行き、24歳の時に東北の石巻に来てはや25年の月日がたちました。まったく見知らぬ土地での生活最初は戸惑いながら地元に着いていき、36歳の時に、水産物輸入販売の会社を設立し、アメリカ、ノルウェー、アイスランド、ロシア、スペインと世界各国から魚を輸入して主に水産加工会社に原料として販売しています。

つい最近もノルウェーに鯖の買い付けで現地にほぼ1か月滞在していました。包丁もって魚を切って品質をチェック、今皆さんがスーパーで買われる鯖のほとんどがノルウェー産の鯖ですよ。当社で5%ぐらいのシェアを扱っているので鯖を通して皆さんにお会いしているかもしれませんね。

39歳の時に4000tの営業冷蔵庫を、その後水産加工に進出し、真鱈のフィレ、各種切り身、贈答用のタラコなどを生産して、全国に販売しております。

また昨年12月に別会社「株式会社萩」を立ち上げ、飲食業に進出、石巻で天ぷら、牛タンのお店「きら天、きら亭」を開店、来年3月には宮城県矢本町に2号店を出店する計画で今準備中です。

萩の思い出

小さい時から身体を動かす事が好きでじっとしてられない性格なので、昼間は会社、夜はお店で板前さんとして昼夜働いていますが毎日充実した日々を過ごさせていただいています。とにかく夢を持ち続ける事を信念に、日々頑張っています。

亡き父が萩の市長をしていた関係で、当時暴力団の問題とか、会津藩との和解とか、よくニュースで萩の事が出ていたのを覚えています。亡くなった時、本当に多くの方から声をかけられ、父の萩への情熱を肌で感じとった事を今でも覚えています。

妻が萩高の同級生で、また萩には市役所をはじめ多くの同級生が活躍してくれているので、本当に嬉しく思います。

萩への一言

どちらの出身ですかと聞かれて、「萩です」と自慢しつつ言える事が大変光栄です。これからただ歴史上の偉大な人物、場所だけではなく、美しいふるさと萩が今後も後世に残っていく事を期待します。

◀ 小池産業(株)本社屋



■ プロフィール

昭和49年萩高校卒、昭和53年北海道大学水産学部卒。54年特設専攻科終了後、今野水産(石巻市)を設立、現在に至る。

妻・佳代子は萩高校の同級生、長女(睦子)高校3年、次女(陽子)中学2年、ゴールデンレトリバーのカール君の5人暮らし。

下瀬信雄氏

(萩高校17期
萩市瓦町在住 60歳)



▲8×10サイズの大型カメラと下瀬氏

平成16年の県選奨（芸術分野）を受賞され、10月に東京、11月に大阪のニコソサロンで写真展「結界V」を開催したばかりの、萩市在住の写真家・下瀬信雄さんにお話をお聞きしました。

県選奨・受賞の感想は？

県選奨（※下段注）にはさまざまな分野があるようですが、芸術分野の写真部門が選ばれるのは、どうやら私が初めてということのようです。他の芸術分野と違って、作家協会などの推薦母体のない中で、どのように自分の名前がノミネートされ受賞に至ったのか、その経緯はよくわかりませんが、いずれにしても、一人の写真家の仕

事を、暖かく見守って、そして推してくださった方がおられたことを、素直に喜んでいきます。

写真の世界を目指されたきっかけは？

祖父・父が満州映画社にいた関係で、満州で生まれ、翌年、終戦とともに、萩に戻りました。萩での家業は写真館で、幼い頃からカメラがそばにある環境で育ち、小学校の頃から写真に興味を持ちだ

しました。

高校2年で父親が亡くなり、長男であったため、家業を継がざるを得ない状況に。当時から現役写真家が講師陣を務めることで定評の東京総合写真専門学校に進み、写真の技術というより、写真の思想を学んで23歳で萩に戻りました。その当時はまさに写真ブームで、一人で写真館を切り盛り、本当に忙しい毎日を過ごしました。

どのような写真家を目指されたのですか？

昭和の40年代頃は、「地方写真家は食えない」、「田舎で写真家は成功しない」などと言われていた時代でした。事実、当時の地方写真家は、その地方の観光地写真やお祭やイベントの写真、そしてS-Lの写真というのがお決まりの定番でしたが、自分はそういう写真は撮らないと決めていました。

丁度そのころ、井上陽水や吉田拓郎といったシンガーソングライター達によって音楽に新しいジャンルが切り開かれたように、写真の世界も、「個人の視点に立った写真」という分野が注目され始めていました。

この流れは、当然写真専門雑誌等にも波及し、何気ない普段の生活の1シーンや、家族の写真など、「個人の小さな物語」ともいうべき写真が、数多く掲載されるよう

なってきました。

私自身も、比較的仕事が暇な夏の時期を中心に寸暇を見つけて、身近な自然をテーマにした作品作りに励みました。

現在の作品のテーマは？

現在は、大きく分けて3つのテーマで作品作りに取り組んでいます。

1つめは、「風の中の日々」。35mmのカメラを使って、散歩しながら道端に咲く草花や、街角の情景をスケッチする感覚で、どちらかといえば、体感的な写真の撮り方をしていきます。

2つめは、「凧の時」^{たこ}。6×6サイズの中型カメラを使用、三脚を立てて風が納まるのを待つがごとく、時間とともに変化していく対象を捉える時間軸的な写真、待つ間に胸に浮かぶ想いを作品に込めるわけです。

そして3つめが「結界」^{けっかい}。4×5版の大型カメラを使い、自然という尊大な空間を切り取る作業。安易に踏み込むことが許されない自然界と人間界の境界線に、ギリギリまで近づこうという試みです。そして、さらに大型の8×10版を本格的に使うべく、今準備をしているところです。

いずれにしても、自然は奥が深く、テーマとしては飽きることは決して無いと思っています（談）。

※山口県は、県最高の知事表彰として、社会福祉、芸術教育、産業など各分野で顕著な功績があった個人または団体を毎年選奨しています。

プロフィール

1944年旧満州国新京市生まれ。1945年萩市に引き揚げる。明倫小・明倫中・萩高を経て、1967年東京総合写真専門学校卒業。以後、萩市で写真館を経営しながら、郷土の風土や暮らしに目を向けた独特の作風で作家活動をつづけている。

1986年山口県芸術文化振興奨励賞受賞。1990年日本写真協会新人賞受賞。

■プレゼント 下瀬さん撮影の「萩開府400年 萩博物館開館記念カレンダー」をプレゼント。申込方法は15ページ。



カレンダーから抜粋
5-6月 おしくらごう
9-10月 大名行列



「時色の町」開設



▲「時色の町・萩」のトップページ
 雰囲気のある写真を中心に構成、直感的に
 欲しい情報に辿り付ける工夫がされている

URL : <http://www.hagishi.com/index.html>



萩市観光協会オリジナル はがき・一筆箋発売



私製はがき



萩市観光協会では、萩開府400年と萩博物館開館を記念して、寺田晴美さん（小郡町在住）のイラスト入り官製はがき、私製はがき、一筆箋を作成しました。

- 官製はがき（4枚1セット） 400円（松下村塾、東光寺、江戸屋横町、夏みかんと土塀）
 - 私製はがき（5枚1セット台紙つき） 350円（旧益田家物見矢倉、浜崎、橋本川沿いの松並木、松陰誕生地より望む市街地、平安古鍵曲）
 - 一筆箋（1種20枚） 300円（菊屋横町、萩八景遊覧船、萩城跡、夏みかんと土塀）
- 販売所（社）萩市観光協会、萩博物館、郵便局等
 ■プレゼント 申込方法は15ページ。

11月1日に萩市観光協会の公式ホームページが開設されました。愛称は、「時色の町・萩」。

これまでの萩市公式HPや観光ポータルサイト「萩・情報の駅」のどちらかと言えば百科事典的な内容に対して、このサイトは萩の情緒あふれる街の雰囲気を、ム

ードたっぶりの写真で伝えようとしています。

トップページの項目分類もわかりやすく、直感的に知りたい情報が選べる工夫がされています。最新のWEBデザイン技術を駆使し、地図から萩の街を検索できたり、自転車やクルマによる萩散歩

問い合わせ 萩市観光協会
 (0838.25.1750)

トとなっています。

また、これまでの萩の観光HPに不足していた、飲食・土産・宿・アトラクションなど、観光客が必要とする個別店舗情報も豊富に掲載。さらに割引券やサービス券などのクーポン情報も数多く掲載されており、観光客にとって嬉しい特典付き。萩の町を全国にアピールする新しいツールとして、期待されています。

▶町散歩のシミュレーションページ 東萩駅を起点に自転車で萩観光をシミュレーション。主なポイントではその画像と解説が表示される。

小魚であり漁獲の対象にならないということで、全国的には一般的なお魚ではなく、お魚屋さんやスーパーの店頭に並んでいるのは萩や下関など山口県でもごく一部だけ。

なぜか萩や下関ではキンタロウと親しみを込めた名称で呼んでいますが、なぜそのような呼び名になったか、いろいろ調べましたが、いまだ答が見つかりません。

店頭に並ぶのは
 萩や下関だけ

キンタロウ、その名前の由来は？



今回は萩名物のキンタロウ。標準和名はアカヒメジ、英語ではゴートフィッシュ、中国では羊魚、口の下に黄色い突起状のヒゲがあり、そのヒゲがヤギを連想させるからとのこと。そのヒゲはヒメジにとって大切な感覚器官、海底のエサをヒゲで探して捕食します。萩沖に大きな漁場が点在し、主に底引き網で漁獲されます。

天ぶら・丸干しがお勧め

萩市内の居酒屋や小料理屋では、きんたろうの天ぶらは定番の人気メニューで、ご当地魚の代表と言えるかもしれません。大きくても15cm程度の小魚ですが、ほんのりとした甘みと旨みは、マダイなど大型の白身魚にも勝る味わいです。



料理は焼き物・天ぶらがポピュラー、特に天ぶらは上品な白身がホクホクした感じでもとても美味しいです。また、見た目にも、鮮やかな朱色の天ぶらというのも珍しいと思います。唐揚げにしたきんたろうのマリネもお勧め。丸干しも旨味が凝縮されて美味で、お土産としても人気があります。

鱈ががれやすいお魚ですが、なるべく鱈のきれいなものを、朱色がきれいなものを選んでください。

Q 合併したら、市役所、町村役場はどうなりますか？

A 本庁舎は現在の萩市役所です。
6町村の町村役場は、「総合事務所」となります。現在の支所、出張所はこれまでどおりです。

総合事務所は5課体制で、住民サービスが低下しないよう取組みます。例えば、戸籍関係の証明や住民票の発行等の窓口業務は、本庁や総合事務所、支所、出張所でも交付が可能となります。

Q 電話番号はどうなりますか？

A 電話番号は現在と変更ありません。従来どおりの市外局番が必要となります。従って、市外局番が同じ地域間の通話は、市外局番は不要です。

- 萩市、川上村、旭村、福栄村→(0838)
- 田万川町、須佐町→(08387)
- むつみ村→(08388)

Q 住所、郵便番号はどうなりますか？

- A** 住所表示は次のようになります。
- 萩市→現行どおり。
 - 川上村→現在の番地の前に「萩市川上」を付ける。
 - その他の町村→現在の大字の前に「萩市」を付ける。

具体例は次のとおりです。

※字の区域、名称は変更ありません。

※郵便番号は現在と変更ありません。

現在の名称(例)	新市における名称(例)
萩市大字江向〇〇番地	萩市大字江向〇〇番地
川上村〇〇番地	萩市川上〇〇番地
田万川町大字江崎〇〇番地	萩市大字江崎〇〇番地
むつみ村大字吉部上〇〇番地	萩市大字吉部上〇〇番地
須佐町大字須佐〇〇番地	萩市大字須佐〇〇番地
旭村大字明木〇〇番地	萩市大字明木〇〇番地
福栄村大字福井上〇〇番地	萩市大字福井上〇〇番地

平成17年
3月6日

新「萩市」誕生

萩市・川上村・田万川町・むつみ村・須佐町・旭村・福栄村の市町村合併



阿武郡町の重大ニュース

2004年
萩広域の3町4村の各役場広報担当者から、平成16年を振り返る我が町紹介をしてもらいました。

川上村

●阿武川温泉ふれあい会館 利用者150万人突破！(10月)

「阿武川温泉ふれあい会館」が平成5年4月にオープンし、良質温泉ということで村民はもとより多くの方々にも愛され親しまれて、10月10日にくらべて150万人目の利用者を迎えることができました。

「阿武川温泉」は、平成2年に源泉開発の試掘に取り組み、平成3年8月に地下約1000メートルで豊富な自噴湯の湧出となりました。

毎分約230ℓ、1日約300トンのお湯が自然湧出し、温度は地表で34・3℃ありました。成分分析の結果、良質のアルカリ単純温泉であることが判明し、村民の皆さんのアンケートにより「阿武川温泉」と命名されました。その後、ふれあい会館の建設に着手し、大好評の露天風呂も二度にわたり改修をして充実し、天然岩に囲まれた湯船に浸かりながら屋外に目を向ければ、四季折々の

風景が開け、身も心も癒され、時間の経つのも忘れるほどの気持ちのよさです。

今後も皆さんに親しまれる「阿武川温泉」を目指してまいりますので利用をお願いします。



▲阿武川温泉ふれあい会館

阿武町

●奈古中学校と宇田中学校が統合新生「阿武中学校」に(4月) 新生「阿武中学校」の開校式が4月7日、同中学校体育館で行われました。

これは、昭和22年の開校以来、共に57年の歴史を歩んできた奈古中学校と宇田中学校が3月に統合

したもので、平成16年度から新生「阿武中学校」として新たにスタートしました。
12月20日には新校舎も完成。これから阿武中学校の生徒たちは、奈古・宇田中学校の良き伝統を引き継ぎ、先輩たちに負けない、新たな伝統と校風を打ち立てていくことでしょう。



▲阿武中学校

田万川町

●田万川中学校が平成17年1月に開校

5月31日、建設途中の田万川中学校の見学会を実施しました。教育委員会が参加者を募集したところ、新しい学校づくりへの関心の高さから、県内各地から60人の方が参加されました。

新校舎は「教科教室型校舎」で、各教科ごとに専用の教室が準備され、生徒は授業ごとに各教科の教室に移動して授業を受けることに

なりません。各教科の専門性、特殊性を十分に発揮できる学習空間ができるのです。

県内初の校舎構造をもつ田万川中学校は、平成17年1月11日に開校し、12日に竣工式の予定です。



▲田万川中学校

むつみ村

●うり坊の郷katamatatown（6月）

6月4日、むつみ村片俣の国道315号沿いにある「うり坊の郷katamatatown」がリニューアルの駅となりました。

地元産の桃太郎トマトなどの新鮮野菜や、手作りの加工品などを販売しています。日曜日に販売している寿司や餡餅は、地域のこだわり食材を生かした人気商品です。また、珍しい猪肉や、トマトを使用したソフトクリームなどもあります。

【施設のご案内】

営業時間 午前8時～午後5時
休館日 12月31日～1月3日
問い合わせ
08388・8・0114



▲道の駅 うり坊の郷 katamata

●むつみ昆虫王国、入場者5万人（8月）

昆虫とのふれあいが楽しめる「かぶと虫ドーム」が人気の「むつみ昆虫王国」が、8月15日に入場者5万人を超えました。

昆虫王国ではほかに、クヌギ林の「昆虫の森」、外国の昆虫展示、幼虫・成虫を販売する「クワガタの館」などがあります。

【施設のご案内】

営業日 7月上旬～8月末日および9月の日曜日
営業時間 午前9時～午後5時
問い合わせ
08388・8・0064

須佐町

●「ふれあいステーション須佐」

オープン（4月）

4月4日、JR須佐駅前に「ふれあいステーション須佐」がオープンしました。12月の夜、国道191号沿いにひときわ華やかなクリスマスのイルミネーションで彩られました。

この施設は、既存の建物が移転した「ふれあい須佐休憩所」と新設の「須佐町高齢者・障害者支援センター」のふたつの施設からなっています。

「ふれあい須佐休憩所」は、地域特産民芸品販売部分として、町内の商店や町民の方が出品された商品や特産品が並んでいます。障害者授産製品展示紹介室と一体となっており、ぜひ立ち寄っていただきたいスポットです。

また、屋外展示場では毎週、木曜日と日曜日に朝市が開催され、多くの人でにぎわう新しい観光スポットとなりました。



▲ふれあいステーション須佐

旭村

●農産物加工販売所「つつじ」が明木国道262号沿いにオープン（5月）

豊かな自然の中で育まれた、旭村自慢の特産品・加工品・工芸品等の販売所と地元の新鮮な食材を使った料理が食べられる農家レストラン「つつじ亭」がオープンしました。



▲農産物加工販売所「つつじ」

●第1回萩往還まつり「技」明木展（5月）

今年初めて開催されたこのまつりは、萩往還沿いの民家の軒下を借り、工芸家の「技」の作品を展示即売し、地元の人たちと来場者、出店者との交流をはかることができると開催されました。

多くの来場者があり、地元の人や来場された人たちに楽しんでもらうことができました。来年も開催されますので、ぜひお立ち寄りください。

福栄村

●福栄村発足50年

今年には福栄村が発足して50年目。この年を記念して、いろいろな行事が記念イベントとして実施されました。

10月17日には村民運動会、10月31日には福栄ふるさとまつり閉村記念イベント、そして、12月5日には旧紫福中学校運動場跡地に整備された公園「楠校園」の記念植樹が実施されました。

運動会では、福栄村最後となる来年の「ふるさとカレンダー」の表紙となる人文字の航空写真を撮影。おまつりでは、阿武教子選手が来場されオリンピック金メダル報告と村民栄誉賞・県民栄誉賞の贈呈が行われました。節目となる年のよい思い出となったのではないのでしょうか。



▲公園「楠校園」

萩同郷会 (大阪)

11月15日

大阪弥生会館



▲野村萩市長を囲んで光塩同窓生の皆さん

80人出席。発起人代表の中山光夫氏(大阪指月会会長)から「萩同郷会は4年に1度開催します、元萩市長の林秀宣氏の時に萩市長を囲む会として始まりました。今年は5回目になります」と挨拶がありました。司会は関西からたち会支部長の木村幸美氏(富士シート取締役)。光塩学院同窓生から7人、水産高校同窓生から1人の出席がありました。会場を飾った萩の観光ポスターを抽選でプレゼントしましたが、大変な人気でした。

下関たちばな会からたち会合同総会

11月13日

唐戸カモンワーフ



▲校歌斉唱

懇親会では、下関唐戸魚市場提供による毎年恒例のふく鍋、ふくさしを食べながら、景品つきの〇×クイズが行われました。また、会の最後には萩工業高校、萩商業高校のEIL交換、校歌斉唱などもあり、大いに盛り上がりました。事務局は中谷満正さん(たちばな会) 090-5081-8545

42名出席。今年は、会場が前年までの南風泊市場から下関市カモンステージ(唐戸カモンワーフ)に変更されての開催とな

りました。松村久たちばな会下関支部長、川原たちばな会理事長の挨拶に続き、菊地昇萩商業高校校長から「来年度には、全学年が35人学級で3学級ずつの定員315人となります。小さいながらも行き届いた教育のできる学校です。部活動でも、女子ソフトテニス部がインターハイの個人戦に出場。電算機部が3年連続で全国大会に出場。と生徒数が少ない中でも活躍しています」と母校の近況報告がありました。

開館以来大好評

「阿武・萩地域 地産地消推進協議会」と「見つめて!やまぐち農産物愛用促進委員会」では、県内産農水産物を積極的に利用し、地産地消に取り組み飲食店を「やまぐち食彩店」として認定しています。このたび、萩博物館内の「まち博カフェ」が、萩の宿・常茂恵に次ぎ、萩市内では2店目の認定を受けました。このまち博カフェは、NPO萩まちじゅう博物館の主婦メンバーが運営。普通、美術館や博物館の喫茶軽食といえば、業務用冷凍食材を使ったお手軽メニューが定番ですが、「まち博カフェ」の提供するメニューは全てオリジナル。お肉・お魚・お米など主素材はもちろん、野菜などの副素材、調味料にもできる限り地元産の食材を使用。料理メニュー(数量限定)の他にも、夏みかんを使ったデザートやドリンクも



▲萩三旬丼 950円

萩沖の旬の魚介を、3種の小丼に。刺身丼、イカの糸造り丼、タタキ丼など。

萩博物館内の「まち博カフェ」やまぐち食彩店に認定

提供しており、特に夏みかんソフトクリーム(350円)は大人気。■見蘭ローストビーフ丼 950円 和牛のローストと言われる見蘭牛とホルスタインの交配種「見蘭牛」をローストビーフ丼に。



11月25日、見蘭近海で、250kgを超えるクロマグロ2匹が1本釣りで釣り上げられた。2本とも最大250kgまで計量可能なハカリでも計れないほどの大物で、28日東京築地市場に出荷されました。その後も見蘭沖では200kgを超える大物が続々と水揚げされており、昨年に続く豊漁に沸いています。

萩市見蘭沖 250kgを超える巨大クロマグロが次々と

田辺勝義さん (阿武町出身、昭和45年秋工卒)

萩工業60周年記念講演会

11月5日、萩工業高校の創立60周年を記念して、田辺勝義氏講演会「海外に夢を」が行われました。

田辺勝義さん(53歳)は、阿武町出身。昭和45年萩工業高等学校土木科を卒業。その後株式会社大林組に入社。ネパール、バングラディッシュなどの海外勤務を経て、最近10年間はカンボジアに勤務されています。

平成4年11月から平成6年2月まで、内戦で荒れるカンボジアの戦乱の中、首都プノンペンと地方を結ぶ唯一の橋「日本橋」の再建に現場責任者として携わり、その

活躍が平成13年3月にNHK「ロジエクトX」で「戦場にかける日本橋」カンボジア・技術者と兵士の闘い」と題して紹介されました。

田辺氏は、全校生徒327人の前で次のように講演されました。

「自分は言葉や宗教の違いを乗り越え、20数か国の人と仕事をしてきました。赴任の途中でその国がなくなったり、名前が変わったりしたこともありましたが。皆さんの世代はもっと多くの世界の人と仕事をしたり、かかわりを持つたりすることになるでしょう。言語



を学び、世界に目を向けてほしいと思います。

技術屋の原点はものづくり。市場で求められる商品の条件は、安い、早い、できの良いの3点が重要であることを忘れず、立派な技術屋さんになってほしい。また、最近企業に入っても、1、2年やめていく若者が大変多い。企業は新入社員を一人前に育てるのに3000万〜5000万円の人的投資をします。会社に入ったらつらくても辛抱してがんばってほしい。」



県大会決勝 (対大津高戦、11月21日)

高校ラグビー 萩工業3年連続花園出場

萩工業高校ラグビー部は、11月21日、萩ウエルネスパーク多目的広場の竣工式後、同会場で開催された山口県大会決勝で、大接戦の末、大津高校を破り(17対10)、花園ラグビー場(東大阪市)で行われる全国高校ラグビーフットボール大会に出場します。3年連続10回目の出場となります。

12月16日には萩市民館で壮行式が行われました。田村耕太郎監督は「予選では人が多かったが、

徐々に回復し、コンディションも整ってきました。まずは初戦突破を目標に、1戦1戦がんばっていきなさい」と、大会に向けての決意を語りました。

全国大会1回戦(12月28日)は三重県代表四日市農芸と対戦2回戦は12月30日、東福岡高校戦)。昨年は初の3回戦進出を果たしましたが、今年も活躍が期待されます。

NHKラジオで、萩の情報を聞いてみませんか?



中原万里さん(昭和54年秋商業卒)

NHKラジオで萩のイベント情報を紹介するコーナーがあるのをご存じでしょうか。約3か月に1回の放送で、早朝5分間の番組にもかかわらず反響が大きいこのコーナー。南古萩在住の中原万里さんが担当されています。

中原さん(43歳)はサンデー北浦の記者を9年間勤め、結婚したのち退職。その後は「俣宿」というギャラリー兼カフェを経営されています。ご主人は人力車をひく中原省吾さん。「9月の放送分を聞いて、初老のご夫婦が萩に来られたんですね。たまたま主人のひく人力車に乗ったときその話題が出たそうです。主人が『その声の主は私の家内です』という話になつて...」

その夫妻はその後俣宿に立ち寄り、話がはずんだそうです。

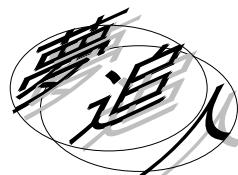
「放送でがんばったご褒美としてそういう方との出会いがあります。ありがたいことです。」

放送の1、2か月前にイベント

情報を集め、4、5日前には関係機関に電話を入れて取材をするそうです。伝える情報はすべて事前取材をします。そうしないと細かなニュアンスが伝えられないからとか。

「よそにはない萩らしさを伝えるため伝統行事をメインにお伝えしています。声だけで萩をイメージしてもらうために『着物姿の子どもたちが裸足で飛び出してくるような路地』など、風景や色、香りを感じてもらえるよう表現にも心を配っています。反響があるとうれしい反面、責任も感じます。でも『萩っていいところだな』『行ってみたいな』と思ってもらえるようがんばっています」

次回の放送予定は1月8日。NHKラジオ第1「ラジオあさいちばん」の中の「列島あさいちばん」というコーナー。朝5時18分頃スタートです。ぜひ萩の近況をラジオで聞いてみてください。



「萩まちじゅう博物館」派遣研究員

中尾明日美さん(23歳)

(萩市平安古在住)

萩の魅力を再発見して、その思いをまちの人たちと共有していきたい。



今、萩市は「萩まちじゅう博物館」という計画を推し進めています。これは、まち全体を博物館に見立てて、その魅力を再発見していくこととする試みのこと。「萩まちじゅう博物館ガイドブック」には、その考え方が具体的な形で一冊に凝縮されています。

この本の執筆・編集にたずさわったのが今回紹介する中尾明日美さんです。大学院生でありながら、地元を離れ、萩に住み込んで町並みを研究する中尾さん。そのバイタリティの源を取材しました。

まちづくりに興味をもった

きっかけ

幼いころから建築に興味があ

り、小学校6年生のときには自分の家を自分で作りたいという夢をもっていました。中学校を卒業後、建築学科のある工業高専に進学。

ここで建築の基礎を学びました。高専は5年制で卒業時に論文を提出します。私は建築史の研究室に入りました。

研究室は、福岡県のある都市を研究対象としていました。そこは炭坑の街として有名でしたが、市の方針でIT産業への転身が図られていました。そうなるとそのまちを支えてきた炭坑に関連する建物や町並みの多くは切り捨てられてしまうのです。

私たちがいくらその価値を明らかにしても、報われない。どうしても、報われない。どうしたら、その建物を守った次の世代につなげていくことができるのか。

私は建築だけではなく、それらを含むまち全体を研究していきたいと考えるようになりました。

西山教授との出会い

平成13年に工業高専から九州芸術工科大学(平成15年10月から九州大学と統合)の3年に編入学し、都市計画を本格的に学びはじめました。そして大学院に進み、西山徳明先生(現九州大学教授・萩まちじゅう博物館推進委員)に師事することになったのです。

先生は「景観というキーワードで町並みを読み解く」という考えをお持ちでした。

萩を例にとると、山や川や三角州があり、海がある。これが大き

な景観を形作り、その中に碁盤目状の街路があり、町家や土塀が連なっている。これらすべてが作用しあって「美しい都市」を形成しています。どれが欠けても萩の町並みにはなりません。

これらの「構成要素」を一つ一つ取り出し、構成のルールを読みとっていく。これが先生の研究方法でした。

この研究が進めば、新しくまちを作るときにも役に立ちます。単に道を通し区画整理をするのではなく、歴史あるまちを参考にしまちのアイデンティティーを大切にしながら街づくりをしていくべきようになります。高度経済成長時代の街づくりからシフトチェンジすること。これが大切なのだと思います。

私が萩へ来た理由

私は今年の4月から萩に住みこんで「萩まちじゅう博物館」というプロジェクトにたずさわっています。大学と萩市がまちづくりの共同研究を始め、その研究員として派遣されてきたのです。

萩まちじゅう博物館とは、萩じゅうに残っている「萩を萩らしくみせているもの」を再発見し、次の世代につなげていくこととする試みです。

萩にはいいものがたくさん残されていますが、その使い方でいき

づまっています。

崩れた土塀や石垣ひとつにも歴史や物語がある。このことに気づくことが、まちの価値を見いだすことにつながります。萩に住む人々が、自分たちが大切にしているものを自覚すること。これが一番大事なことでないでしょうか。

私が萩へ来たのは、このまちを学生の研究対象としてではなく、卒業してからも関わっていきたく考えたからです。この「萩まちじゅう博物館」の考え方を大きく育て、広めていくことが私の夢です。

プロフィール

昭和56年3月生まれ。佐賀県出身。九州大学大学院芸術工学府に在籍。専門は都市計画。

今年4月より、大学からの派遣研究員として萩に滞在中。

「萩まちじゅう博物館」ガイドブック 城下町編



萩博物館で購入できます。

B6判/50ページ

定価 300円

発行 萩市

プレゼント 詳細は15ページ。

萩市在住の二人が

山口県文化功労賞

芸術文化振興奨励賞

を受賞

芸術・文化の分野で高い水準の活動を続け、将来性のある個人・団体に贈られる山口県芸術文化振興奨励賞と、文化振興の功労者・団体をたたえる山口県文化功労賞。

昨年金子信彦氏（萩焼作家）、2年前の三輪和彦氏（萩焼作家）の文化功労賞受賞に続き、萩市在住で、萩焼、音楽の分野で活躍されているお二人に各賞が贈られました。

山口県文化功労賞

兼田 昌尚 氏

(51歳 萩市前小畑在住)



兼田さんは、筑波大学大学院芸術研究科美術専攻を修了後、父で故7代目兼田三左衛門氏に就いて作陶を始めました。その後、陶芸家として優れた創作活動を続け、国内だけでなく、サンフランシスコ美術館など国外の美術館にも多数の作品が所蔵されています。また2000年から3年間、筑波大学で芸術学系の助教授を務めて後進の育成にも尽力されています。

「伝統的な萩の素材や技法を駆使しながらも、地域性という概念を超えて『陶の現在性』というラグローバルなスタンスで制作を心がけるようにしています。今後も今までと変わりなく、制作中に気づいたこと、完成後の反省点などをもとに制作を継続していくことで、次なる新しい展開が生まれてくると確信しています」

山口県芸術文化振興

有富 美子 氏

(51歳 萩市中小畑在住)



有富さんは、武蔵野音楽大学音楽学部声楽家卒業後、県立高校の音楽教諭を務められたわら、声楽家として、オペラや美術館コンサート等においてソリストとして活動されています。

特に、平成2年から萩市で、原語で第九を歌う市民合唱団「萩第九を歌う会」を結成。昨年も約200人の市民合唱団を指導し、12月19日に『萩・第九演奏会』を開催し、大成功を収められました。

現在は、萩高校教諭、山口県高等学校文化連盟合唱部会理事長、山口県音楽協会常任理事等。

「これからも音楽や合唱指導を通じて、音楽を愛する心を育み、心豊かで健康な人生を送れるよう、情操教育や生涯教育に努めていきたいと思っています。また、地方からの音楽文化発信ができるよう、地域の音楽文化向上に精進していきたいと思っています」

博物館・美術館だより

萩博物館

【企画展示室】

田中助一氏収集資料受贈記念展

明治維新をささえ た萩の人びと

2月13日まで

明治維新を舞台裏でささえた萩の人々にまつわる資料を厳選して紹介。明治維新に活躍した萩ゆかりの人物としては、一般的には吉田松陰や高杉晋作が有名だが、そのほかの人物にも光をあて、「人材の宝庫」としての萩を再発見できる。

い花々について、美術工芸、歴史、民俗、自然など様々な分野から総合的に紹介します。

【秋再発見ギャラリー】

市民参加型展示「知ってる？萩の海のこと」展

とき 1月16日～2月28日

開館時間 午前9時～午後5時
(入館は4時30分まで)
休館日 なし

※年末年始も開館します。

入館料 大人500円、高・大学生300円、小・中学生100円
問い合わせ 萩博物館
(0838・25・6447)

山口県立萩美術館

浦上記念館

シリーズ山東文物。

小さな御仏たち展

3月13日まで

中国の南北朝時代には、仏寺への奉獻を目的として、数多くの仏像が制作されています。北魏から隋にいたる南北朝時代の金銅仏の中から、記念銘がありかつ美術史的価値の高い作例を中心に73件を紹介。

【展示室1】

浮世絵展示「小林清親」

とき 1月12日～2月13日

【展示室2】

東洋陶磁展示「中国の青磁と朝鮮半島の青磁」

とき 4月17日まで

開館時間 午前9時～午後5時
休館日 月曜日

※年始は1月2日まで休館です。

入場料 一般700円、学生500円

問い合わせ 県立萩美術館・浦上記念館(0838・24・2400)

情報アラカルト

関東地区

- 美味しい日本 旅館・名産編
全国各地の名産が味わえる同イベントに山口県からは、秋の宿常茂恵が参加します。
- ◆「秋のふく井、ふく皮漬付」イートイン
とき 1月12日(水)～17日(月)
価格 2100円
ところ 横浜西区 そごう横浜店(045・465・2111)
- ◆「ふく皮酢漬」販売
とき 1月19日(水)～25日(火)
ところ 東京都豊島区南池袋 西武池袋店(03・3981・0111)
- 伝統工芸品展 WAZA 2005
秋陶芸家協会の秋焼作家の湯呑等が展示、販売されます。
とき 2月2日(水)～8日(火)
ところ 東京都豊島区 東武百貨店(03・3981・2211)
- 岡田裕作陶展
秋焼作家・岡田裕の作品が展示されます。

関西地区

- とき 2月10日(木)～16日(水)
ところ 大阪市阿倍野区 近鉄阿倍野店(06・6624・1111)
- 中国地区
■金子信彦作陶展
秋焼作家 金子信彦の作品が展示されます。
とき 1月15日(土)～21日(金)
ところ 広島市中区本通7・21叶や(082・247・4401)
- 小田光治作陶展
秋焼作家 小田光治の作品が展示されます。
とき 2月2日(水)～14日(月)
ところ 岡山市表町 アートスペースストラヘドロン(086・223・3155)、
倉敷市老松町3・4・1 旅館御園(086・422・3618)
- 山口県関係
■毛利博物館の企画展
●正月飾り
毛利家伝統の正月飾りや、新年にふさわしい遊戯具等を展示。
とき 1月1日(祝)～23日(日)
午前9時～午後5時

ところ 防府市多々良1・15・1 毛利博物館(0835・22・0001)

■山口県立美術館の常設展
●秋の茶陶
県立美術館所蔵の秋焼作家 三輪壽雪らの作品が展示されます。

とき 2月1日(火)～3月27日(日)
ところ 山口市亀山町 山口県立美術館(0833・925・7788)

九州地区

- 望雲の「ふゆ展」
大屋窯の浜中孝子のアクセサリが展示されます。
とき 1月31日(月)まで
ところ 福岡市中央区渡辺通2・3・27 待鳥ビル507ムービングギャラリー望雲(092・733・1135)
- 萩市関係
■ヴィレッジのコンサート
●ホッド・オブライエン・トリオ
現代最高のバップ・ピアニストの一人、ホッド・オブライエンとドラム、ベースのコンサートが開催されます。
とき 2月6日(日) 午後7時～
ところ 萩市土原 喫茶ヴィレッジ(0838・256・596)
入場料 7000円

■花遊
萩の草花を題材にした押し花絵を展示します。
とき 1月21日(金)まで
ところ 萩市南古萩町 青木周弼旧宅

問い合わせ 萩市観光課(0838・255・3139)

■萩人形展 夢遊びと和の世界
萩の自然と文化をテーマに生まれた高さ10cmの日本人形。萩民謡「男なら」や「夏みかん娘」などの約200点を展示します。
とき 1月31日(月)まで
ところ 萩市椎原 伊藤博文別邸(0838・255・3527)

■藤崎恒頼作品展
椿、コスモスなどを題材にした絵画20点が展示されます。
とき 1月20日(木)～25日(火)まで(23日は休み)
ところ 萩市江向 萩郵便局コミュニティルーム(0838・222・0681)

■吉賀大眉記念館開館10周年記念「山口県現代工芸美術展」
山口県在住者34人の陶芸・染色・革・金属・人形部門の作品が展示されます。
とき 1月7日(金)～30日(日)
午前9時～午後5時
ところ 萩市椿東前小畑 吉賀大眉記念館(082・247・4401)

第51回日本伝統工芸展

- 秋焼作家・岡田裕、波多野善藏、波多野英生、止原信郎の作品が展示されます。
- 高松展 1月6日(木)～23日(日) 高松市番町 香川県文化会館(087・831・1806)
 - 広島展 1月25日(火)～2月6日(日) 広島市中区 三越広島店(082・242・3111)
 - 福岡展 2月9日(水)～14日(月) 福岡市中区 福岡天神岩田屋(092・721・1111)
 - 仙台展 2月22日(火)～27日(日) 仙台市青葉区 三越仙台店(022・225・7111)

出版情報

- 彩陶庵の企画展
●秋・4人のうつわ・其の式
秋焼作家 金子司、中島大輔、野坂和左、大屋窯の浜中史郎の作品が展示されます。
とき 3月4日(金)～13日(日)
ところ 萩市呉服町 ぎやらりー彩陶庵(0838・255・3110)
- 時代を動かした人々7 維新編「奔れ! 憂い顔の剣士 桂小五郎」古川薫著
情熱の人でありながら冷静沈着、長州のリーダーとして維新の立て役者となった桂小五郎(のち

新規加入会員ご紹介

難波晋子さん (埼玉県坂戸市)
西本謙佑さん (大阪府茨木市)
庭屋和子さん (大阪府茨木市)
木下美恵子さん (大阪府豊中市)
増山碩子さん (大阪府茨木市)
小笠原純枝さん (奈良市)
藤崎定七さん (神戸市)
三嶋千代乃さん (大阪府高槻市)

川井冨徳さん (萩市)
広田智恵子さん (下関市)
柳勝巳さん (岡山市)
針生純子さん (東京都目黒区)
西川勇さん (萩市)
中村町子さん (長門市)
高雄一壽さん (萩市)
河野裕昭さん (福栄村)
(2004.10.26～12.21 加入者16人)

の木戸孝允)を青年時代の美男剣士像にしぼって描く。
A5判/約189ページ
定価 1680円
発行 小峰書店

■「松陰と晋作の志―捨て身の変革者―」一坂太郎著
吉田松陰と高杉晋作、二人の若い武士を突き動かしたものは、一体何だったのでしょうか。十数年来、二人の魅力を語り続け、私の声はまだまだ響かれません。明倫小学校で朗唱されている「松陰先生のことば」も収録しています。(著者の言葉)



新書判/約254ページ
定価 780円
発行 KKベストセラーズ

■「家庭画報」2月号(12月28日発行)
萩の宿・常茂恵の「萩のふく井」が紹介されます。

定価 1000円
発行 世界文化社

■ブックレットシリーズ「萩ものがたり」

平成16年度出版分4冊まとめて2000円(送料込)で特別販売

●高杉晋作の魅力がQ&A形式でたどる「高杉晋作・一問一答」

●萩の橋の公式ガイドブックとも言える「萩の橋」

●萩開府の祖・毛利輝元の足跡をたどる「萩開府」

●萩のまち全体を屋根のない博物館に見立てた「萩まちじゅう博物館」

この4冊が、平成16年度に出版され、いずれも好評を得ています。この度、萩ネットワーク会員の皆様へ、この4冊をまとめて、定価2300円を2000円(送料込)の特別価格で販売します。購入の申し込み・問い合わせ

萩ものがたり事務局(電話0838・253233、FAX0838・2615458)

なお、定期購読会員に登録されますと、年会費2000円(送料込)で、毎年4月と10月に2冊ずつ発行される新刊が定期的にお手元に届きます。こちらも併せてご利用ください。



テレビ・映画情報

■「中・四国を旅する(仮)」

萩まちじゅう博物館をテーマに、萩博物館、椿群生林などが紹介されます。

放映予定日 1月20日(木)

放送局 TYS(テレビ山口)他、中・四国エリアのTBS系列

■NHK「にっぽん愉快家族」

12月12日に萩市民館大ホールで公開録画された番組です。

出演者(司会) コロッケ、華原朋美、(ゲスト) 堀内孝雄

放映予定日 2月13日(日) 午後1時～1時45分

放送局 NHK総合

■「家という物語(仮)」
藍場川の旧湯川家住宅が紹介されます。

放映予定日 2月20日(日)

放送局 KRY(山口放送)他、全国日本テレビ系列

■映画「ほたるの星」ビデオ・DVD発売

明倫小学校ほか萩市の各所が撮影の舞台となった作品。
菅原浩志監督、小澤征悦主演

プレゼント

①下瀬信雄氏「萩開府400年 萩博物館開館記念カレンダー」(10名様)

②萩市観光協会オリジナル私製はがきと一筆箋のセット(2名様)

③萩まちじゅう博物館公式ガイドブック(3名様)

④2005年吉田松陰カレンダー(2名様)

応募方法 〒758-8555 萩市広報課内萩ネットワーク協会フ

レセント係宛、希望商品名、住所氏名、ネットワークの感想などを

明記の上、官製ハガキでご応募ください。

締切 1月20日(消印有効)



映画「スウィングガールズ」出演の金崎さん

(萩商平成13年卒)

12月13日、応援に駆けつけた観客で萩ツインシネマ2号館が超満員になった中、萩市浜崎町出身の金崎睦美さん(22歳、東京在住)の舞台挨拶がありました。金崎さんは、ガールズ随一のトランペット奏者。映画の中でも、トランペットのソロの部分を担当しています。この日は、映画の中でも演奏したジャズのスタンダードナンバー「A列車で行こう」等3曲を披露し、映画のエピソードを交えた話もされました。

【本人コメント】

監督がトランペットを吹いているときの顔が一番いいよと言ってくださったので、やっぱりそこを見てほしいと思います。

◆映画「スウィングガールズ」

「ウォーターボーイズ」の矢口史靖監督によるヒット映画。2004年9月から公開。

東北を舞台に、ジャズに魅了されていく女子高生の姿を、笑いと音楽満載で描く。

萩沖の島々を巡る

その① 【見 島】 上



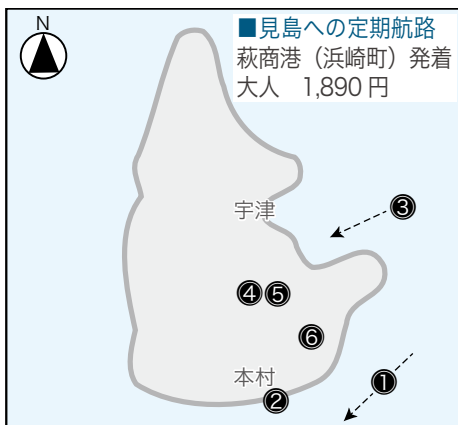
①定期船おにようず／萩と見島を結ぶ高速船、所要時間は約70分。高速船が就航する前は、2時間余もかかり、揺れも大きかったが、今では多少波があっても快適な船旅。



②本村漁港／高速船が最初に着くのが本村集落。漁港には大小の漁船が係留。島の周辺や沖合いの八里ヶ瀬など、豊かな漁場に恵まれている。この時期はヨコワ（本マグロの若魚）漁の盛期。



③日崎沖から／島の東側の沖合いからジーコンボ古墳群や宇津集落方面を見たアングル。沖合いから見ると、夕日が島に沈んで行く。



見島・相島・尾島・櫃島・大島・肥島・羽島と萩沖には七つの島が点在しています。島ならではの文化や風習を色濃く残し、素朴な人情が息づく萩沖の島々。今回からシリーズで順番に探訪することにします。
(取材・文 中澤さかな)



④-2見島牛の鞍／見島牛はかつては農耕に使われ、当時に使用されていた鞍。製作年是不詳、民具として保存されている。

④見島牛／和牛のルーツとして天然記念物に指定されている伝統和牛。島を一望できる高台にある放牧場で、爽やかな風に吹かれながら、ゆったりのんびり草を食んでいる。普通の牛に比べて、小柄で穏やかな表情をしている。肉質は最高級の霜降り肉だが、残念ながら島では食べることは出来ない。



⑤見島八十八ヶ所／島のあちこち、合計88ヶ所に写真のような小さな祠や地蔵が安置されている。かつて、島で婚礼があると縁戚以外の者でも、お地蔵さんを抱えて行けば宴席に参加できたという。この度、「見島八十八ヶ所巡り」として看板やマップを整備、トレッキングルートとしてデビューした。



⑥鬼揚子／見島独特の伝統凧、平安時代に朝鮮半島から伝来したと言われる。長男が生まれた家に親類縁者が集まり6畳大の凧を製作、翌年の正月に子供の健やかな成長を願って揚げる風習が現在も続く。